国籍も宗教も問わずに入れるウィーン中央墓地（ワールド・ミュージックファン・セメタリー提供）

ベートーベンと墓友にウィーン墓地300万円から発売中

ベートーベンやシューベルト、ブラームスなど歴史に残る音楽家が埋葬され、オーストリアの重要文化財も数多い「ウィーン中央墓地」。総面積250万平方㍍と青山霊園の約10倍の広さで、年間約2千万人が訪れる観光地でもあるが、ここに日本人が墓をつくる権利が発売され、注目されている。

墓地の使用権を獲得したのは兵庫県姫路市にある「ワールド・ミュージックファン・セメタリー」。同社代表取締役の三島成康氏が、こう語る。

「従来の墓の多くは故人の遺志を尊重するものではありませんでした。私を含め、日本に音楽好きは多いので、美しい景観の中で楽聖たちのそばに埋葬されたらどんなに幸せかと思い、十数年の交渉を経て、2011年に310人分の埋葬スペースを手に入れました」

ベートーベンら楽聖たちが眠るのは「音楽家特別名誉区32A」という区画。同社が取得したのは、そこから約70㍍離れたれんが造りの建造物の中の「特別名誉霊廟アーケードNo.5」という区画だ。地上部分には彫像や埋葬者の名前が刻印された記念墓碑が飾られ、地下の石室内に納骨されることになる。

「刻銘板の大きさや納骨棚により、300万円、500万円、1千万円の3種類の価格設定です。現在、ロシアやシンガポールなど海外からも問い合わせがきています」（三島氏）

高価ではあるが、購入後は掃除や修理などの管理もしてくれるため、墓参りをして清掃するなどの煩わしさは一切ないという。

指揮者の中川謙人氏(77)は、今春、500万円の区画を購入した。

「死んだら、音楽家にとって故郷である〝音楽の都ウィーン〟に帰ろうという気持ちです。私は独り身で兄弟に先祖のお墓も任せられるので、自分のお墓にも夢をもちたいと思って購入しました。おそれおおいですが、大好きなシューベルトのそばで眠れたらとても光栄です」

葬祭カウンセラーの二村祐輔氏が解説する。

「メモリアルとしてお墓に思い入れをもつ人と、できるだけ簡素に済ませたい人の二極化が進んでいます。ウィーンに埋葬されることは、音楽愛好家には憧れで、お金には代えられない価値があります。ウィーンに埋葬されることを自分のステータスと考え、余生の潤いにもつながるはずです」

楽聖たちと〝墓友〟になって永眠。確かに音楽好きにはプライスレスだろう。

本誌・牧野めぐみ

の〝出番〟に期待が高まっているのだという。前出のテレビ誌記者は言う。

「『おしん』や『おんな太閤記』など、ピン子さんが途中で亡くなる作品はヒットするというジンクスがある。本人も自負しているようで、『見せ場は私が死ぬシーンよ』と豪語していました」

その見せ場のために、ピン子も〝準備〟は万全とか。

「実は最期のシーンの撮影前に、『ぽっちゃりと元気そうな姿では亡くなる人に見えない。もっと細くなければリアルじゃないよね』と、ダイエットに励んだんですよ」（芸能プロ関係者）

努力の成果の放送はまだ先。次の鬼姑の辛辣なイビリはいつ見られるか？

本誌・牧野めぐみ

日本で発売中の〝No.5〟に設置された記念墓碑

朝・夕刊全紙面（東京最終版）をコンパクトに収録
朝日新聞縮刷版
9月号（索引付き）
御嶽山噴火、死亡・心肺停止36人　火山活発化捜索阻む
テニス錦織、全米準優勝　4大大会決勝進出は日本人初
朝日新聞、慰安婦証言と吉田調書報道を取り消し謝罪
好評発売中　定価6480（税込）円
お近くの書店またはASA（朝日新聞販売所）にお申し込みください。

管理組合を悩ます マンション 認知症トラブル

週刊朝日

日本が震える
エボラ出血熱
Xデー

私も「カサンドラ妻」です
読者から大反響

本誌は やはり
秘密保護法に
反対します！

11・14
380円

岡田将生

いまだから話せる
昭和天皇
とっておきの一瞬